【別紙】平成２９年度　学 校 自 己 評 価 重 点 目 標 シ ー ト　（川口市立川口総合高等学校）

（Ａ４判横）

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	自然を大切にし、人を愛し、真・善・美を求め、社会の変化に対応できる自主的精神を養い、国際社会に平和を築く、心身ともに健康で、個性豊かな人間を育成する。
目指す学校像	自己実現を目指す多彩な教育活動を通じ、生徒が自らの学力、体力、技能、人間性の伸長を実感できる学校

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	名
事務局（教職員）	名

学校自己評価							学校関係者評価
領域	年度目標			年度評価（平成　年　月　日現在）			※実施日　平成　年　月　日
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
組織運営	【現状】 校長の学校経営方針に基づいて企画委員会各主任が組織を動かし、教職員が着実に校務を遂行している。 【課題】 ○新市立高校の開校に向けて市教委及び新校準備部会と連携し、分掌業務を計画的かつ効率的に進める必要がある。 ○教職員の負担軽減及び生徒の身体的・精神的な疲労回復を図るため、ワークライフバランスを一層推進することが大切である。	○本校の校務分掌業務と新校開校に向けた校務分掌業務を両立させながら、本校の経営方針・重点目標及び新校の基本理念を実現する。	①毎回の職員会議で、新校準備部会及び本校の準備連絡会から進捗状況を報告し、情報を共有する。（通年） ②物品移動・記念誌発行・閉校式準備等について長期休業期間を活用した計画を策定し（５月まで）、３月までに効率よく作業を進める。				
		○ワークライフバランスを推進する。	①保護者・生徒に部活動休養日等について周知する。（５月まで） ②全ての部活動で週１日程度の部活動休養日を設定し、実施する。（通年）				
教育課程	【現状】 進学型総合学科として、多様な生徒に対応した教育課程を編成している。 【課題】 ○本校の教育方針である「文武両道による総合力（豊かな心と確かな学力）の一層の育成を図り、新校の基本理念である「①文武両道に優れ、徳力を備えた人材の育成　②地域のリーダーとなる人材の育成　③グローバル社会で活躍できる人財の育成」につなげることが大切である。 ○生徒の多様なニーズに応えるための支援をより組織的に行う必要がある。	○文武両道に優れた生徒を育成する。	①チューターによる放課後学習会を市教委と連携して実施する。（通年） ②被災地ボランティア（３学期）、３校合同の短期留学の参加数を増やす。（４月） ③検定受検を奨励し、より高いレベルにチャレンジする生徒を増やす。（通年） ④部活動を更に活性化させ、全国大会で上位入賞できる部活動を増やす。（通年）				
		○進路指導部を中心に、学年・教科が連携して一般受験に対応できる学力を身に付けさせ、国公立大学や難関私立大学の合格者数を増やす。	①学習課題を工夫したり模試の受験を奨励するなどして学習習慣を身に付けさせる。さらに、スタディ・サプリやＩＣＴ等を活用した授業を行う。（通年） ②長期休業中に部活動と区分けした進学講習を実施する。（８月、１２月、３月）				
開かれた学校づくり	【現状】 ホームページや広報誌等を通して本校の教育活動を積極的に発信し、期待と信頼に応える学校づくりに努めている。 【課題】 ○小中学校との連携強化に取り組み、本校及び新校に対する信頼を一層高めることが大切である。 ○市教委及び新校準備部会と連携し、新校開校に向けたＰＲを組織的に行う必要がある。	○本校及び新校が地域に根ざした学校となるよう小中学校との連携を強化する。	①市教委及び市の関係部署と連携し、生徒を市内小中学校及び市の施設等に様々なボランティアとして派遣する。（通年） ②青木地区の全ての小中学校で、学習支援ボランティアを実施する。（通年）				
		○ホームページや情報発信の方法を工夫し、本校及び新校の教育活動を広く公開することで地域の信頼を一層高める。	①ホームページを通じて常に最新の学校情報や新校の情報を年間３００回以上配信する。（通年） ②広報誌の発行を年３回行い、家庭・地域へ情報発信する。（通年）				
教職員の資質向上	【現状】 教育公務員として高い使命感を持ち、教育活動や部活動に熱心に取り組んでいる。また、生徒による授業評価アンケートや保護者アンケートを活かし、指導力向上に努めている。 【課題】 ○保護者、市民・県民の信頼を更に高めるため、教職員一人一人が教育公務員として高い使命感を持って資質・能力の向上を図り、信頼関係に立つ教育を実践することが大切である。 ○国の動向を注視しながら高大接続システムや次期学習指導要領改訂（アクティブ・ラーニング等）の研修を進める必要がある。	○教職員の資質・能力の向上のために参加型の研修を行うとともに、外部の研修に参加する。	①ワールド・カフェ方式を取り入れた教職員不祥事防止研修会を実施する。（２学期） ②外部研修参加を奨励し、事後報告会を実施して全体の指導力を更に向上させる。（通年）				
		○協調学習など、生徒が主体的に授業に参加し、思考力・判断力・表現力等を育成する授業改善に取り組むとともに、研究授業や授業評価アンケート等を活用し、授業力の向上を図る。	①アクティブ・ラーニングについて職員研修会を実施する。（２学期） ②アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を全教員が１回以上実施する。（管理職の授業観察時または指導課訪問時） ③授業力の向上をテーマに、研究授業や授業評価アンケートに基づいた研究協議を各教科で実施する。（通年）				
施設・設備等の管理	【現状】 緊急地震速報受信システム、メール配信システムなど安全面の整備を進めている。 【課題】 ○新校舎工事が実施されているため、危機管理意識の一層の高揚を図り、事故を未然に防ぐことが大切である。	○新校舎工事に伴う新たな避難場所と避難経路の周知徹底を図る。	①新たな避難場所と避難経路を校内に掲示する。（４月） ②避難訓練を１学期の早い段階で実施する。（４月）				
		○教育活動における安全を確保する。	①市教委と連携し、工事に伴う代替施設（グランド等）を確保する。（通年） ②毎日の校内巡視、毎月の安全点検を速やかに実施し、修繕等の事後対応を速やかに行う。				